

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-26	実施計画番号	33	事業開始年度	平成27年
事務事業名	子ども十和田検定事業			事業終了年度	平成27年
担当課名	スポーツ・生涯学習課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	「十和田検定」の子ども版テキストを作成し、市内の小学校5・6年生を対象に「子ども十和田検定」を実施する。				
事務事業の目的	子どもたちが生まれ育った故郷の歴史や文化等の知識を深めることで、郷土を誇り、郷土の良さを発信できる次世代の育成を図る。				
実施状況	【申込期間】9月15日～10月9日 【受験日】11月7日 【受験料】500円				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)		1	
	活動日数(日)		5	
	人件費(千円)	0	180	
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	0	300	

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		受験対象者への周知(チラシ配付)			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人		1,132	
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		検定申込者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	目標値		100
				実績値		27
				達成度(%)		27%
	成果指標名②		合格者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	目標値		27.0
		実績値			22.0	
		達成度(%)			81%	

## 十和田市事務事業評価シート

### 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	B	1	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「ご当地検定ブーム」が一時期より下降気味なことから、早い時期の検定が望ましかった。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	2 / 4	「ご当地検定ブーム」が一時期より下降気味なことから、早い時期の検定が望ましかった。	
	存在意義の見直しの余地	2 / 4								
「ご当地検定ブーム」が一時期より下降気味なことから、早い時期の検定が望ましかった。										
② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	B	1							
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">3 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">検定を実施することで、歴史や文化・観光などの知識を深めたり興味をもつ機会となるため有意義ではあるが、対象である小学校5~6年生のスポーツ活動や行事等に重ならない日を検定日として選択することが重要。また、大人が子供の送迎に関わることから大人の検定との同時実施が効果的と考えられる。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	3 / 6	検定を実施することで、歴史や文化・観光などの知識を深めたり興味をもつ機会となるため有意義ではあるが、対象である小学校5~6年生のスポーツ活動や行事等に重ならない日を検定日として選択することが重要。また、大人が子供の送迎に関わることから大人の検定との同時実施が効果的と考えられる。	
	成果向上の余地	3 / 6								
	検定を実施することで、歴史や文化・観光などの知識を深めたり興味をもつ機会となるため有意義ではあるが、対象である小学校5~6年生のスポーツ活動や行事等に重ならない日を検定日として選択することが重要。また、大人が子供の送迎に関わることから大人の検定との同時実施が効果的と考えられる。									
④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">問題集及び解説・回答集の原稿作成とチラシ配布(周知)を教育委員会が行い、ポスター(チラシ)作成及び検定実施は商工会議所が行った。問題集及び解説・回答集ができたことから、これからの実施は外部委託で可能。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	問題集及び解説・回答集の原稿作成とチラシ配布(周知)を教育委員会が行い、ポスター(チラシ)作成及び検定実施は商工会議所が行った。問題集及び解説・回答集ができたことから、これからの実施は外部委託で可能。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	問題集及び解説・回答集の原稿作成とチラシ配布(周知)を教育委員会が行い、ポスター(チラシ)作成及び検定実施は商工会議所が行った。問題集及び解説・回答集ができたことから、これからの実施は外部委託で可能。									
⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4		
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
			<b>現在の適性</b>	<b>15 / 20</b>	<b>改善の余地</b>		<b>5 / 20</b>			

### 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **15** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **5** 点です。

### 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

問題集及び解説・回答集が作成され各学校に配布されたことや商工会議所のHPIに掲載されたことから、市民の方は「家族で検定を受ける」「問題に出ている現地を訪ねてみる」等幅広い活用ができることとなった。一時的なもので終わらせることなく他の事業と連携して活用していくことが望まれる。